

＜支援者親睦会＞

1月21日、新支援者8名を含む30余名で交流会を開催しました。最近は、学習者、支援者も増えて学習会自体は活発に運営されているのですが、日常活動の時間のほとんどは学習者と支援者のペアでの学習なので、支援者相互の交流の機会が非常に少ないということが指摘されていました。

当日は、数名ずつ六つのグループに分かれて、フリートークの形で意見交換を行い、最後に以下のような点について各グループから発表がありました。

（1）各人の支援者となった経緯

○「外国から来た方に何らかの形で役に立ちたかった」という思いに至った

各自の経験談

（2）支援者としての心積もり

○学習者を孤立させないことの大切さ

○「先生」ではなく「支援者」であること、共に学ぶという気持ちの大切さ

○学習上で起こる様々な問題は一人で抱え込まず、支援者同士での共有化を目指す

（3）教え方の工夫について

支援者誰もが経験する漢字や文法の教え方について、（絵）カードの利用などが紹介されました。

（4）支援者活動でよかったです

支援者誰もが「よかったです、うれしい、驚く」経験を持っているのですが、

支援者活動を通じて「元気になった私」を見て「家族が喜んでいる」という報告もありました。

（5）これから課題

○「学習者の遅刻が気になる」「彼らが今後日本社会で生活していくとしたら、改めるべきことと思う」などという問題に支援者全体としてどう接触していくべきか？

○オンライン学習者の「話す力」の向上対策

以上のようなことが二時間の交流の中で話し合われました。日頃なかなか顔合わせもできないこともあって、どのグループも活発に意見の交換が行われ、親睦も深まったと思われます。